

北海道と北海道民を愛する皆さまへ

北海道内の新型コロナウイルス感染拡大を抑えるためのお願い

2020年4月21日

北海道大学医学研究院公衆衛生学 玉腰暁子

新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、4月16日には全国を対象とした緊急事態宣言が発出されました。この中で、特に患者数、増え方のスピード、孤発例の割合から、北海道は他の12の都府県とともに特定警戒都道府県とされています。振り返ってみると、道内では、3月19日の道独自の緊急事態宣言終了時点では157人であった患者数累計が、4月15日には313人、そして20日には451人と、速いスピードで増加しています（2倍まで27日、3倍まで5日。ちなみに道独自の緊急事態宣言が発出された2月28日時点では半分以下の66人でした）。そのため、これ以上の感染を防止するため、感染防止の徹底、外出自粛の要請、施設の使用停止・催し物の開催自粛の要請等の措置が行われています（<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tkk/kyuugixyouyousei.htm>）。

北海道では、他地区に先駆けて道独自の緊急事態宣言が出され、一定の効果がみられてきました。そのことは誇ってよいと思います。しかし、3月後半の緊急事態宣言終了後の行動、海外からの帰国者の増加、そして年度末・年度初めの人の移動の影響を受け、再び感染拡大のフェーズに入ってしまった。現在、全国的に病院内感染も増加しており、新型コロナウイルス感染症の患者さんだけでなく、その他の疾患や事故の患者さんの治療にも影響を及ぼす恐れが現実のものとなってきています。

でも、私たちには、改めてこの危機に対応する力があるはずです。

皆さんの行動が、新しい感染を防ぎます。いつ、どこで、誰と会ったか、この数日間の自分の行動を思い出せますか？ リスクの高い場ではありませんでしたか？ また、これまで会っていた人の数や外出機会を減らす方法を考え、できることから実行しましょう。一度にできなくても、一つずつ少しずつでも実施することが大切です。周囲の方とも意識を共有し、一緒に取り組みましょう。感染が拡大し、医療機能が崩壊することで、救える命が救えなくなるような事態が生じることを皆さんの行動で阻止してください。

一方で、私たちの生活を支えるための食料や日用品の生産、運搬、販売に関わる方々、電気・ガス・水道といったライフラインの維持に関わる方々、生活の維持に必要な行政機関で働く方々、私たちの安全と暮らしを守る方々、医療機関で働く方々、保育や介護の現場を支える方々、その他多くの皆さまは、自身が感染リスクにさらされながら、日々の仕事に従事されています。その活動に心から感謝し、敬意を表したいと思います。

この取り組みは長期戦になるでしょう。効果を見つつ対策を緩和したり強化したりを繰り返すことになると考えられます。身体が弱らないよう、心が折れないよう、規則正しい生活を心がけ、毎日の生活にちょっとした喜び、楽しみを見つけていきたいと思います。

皆さまには、今後とも、ご自身と大切な方、そして北海道を守るため、デマに惑わされることなく、引き続きリスクを避ける行動をとられるよう、お願いいたします。